テゴーロ 施工・取扱説明書

《 クローゼット折れ戸 》

この説明書には、施工上重要な項目が記載されています。
施工の際にはよく読み、手順通りに正しく施工してください。
また、使用後は必ずお施主様にお渡しください。

1 施工上の注意

テゴーロを長期間、安全にご利用いただけるように、またトラブルの無い確実な施工をしていただくために、以下のことを必ずお守りください。

テゴーロは一般住宅の室内用ドアです。他の用途へのご使用はおやめください。

扉・枠・金具に工具をぶつけたり、運搬時に引きずらないようご注意ください。傷を付ける恐れがあります。

照明、ストーブ等に近づけすぎないでください。熱によるミートの変色、ふくれ等の原因になります。

枠の水平・垂直を確認してから取り付けてください。扉が閉まらない原因となります。

工事が終了するまでの間、扉を壁に立て掛けたり、床に寝かせて保管しないでください。

2 使用上の注意

テゴーロを長期間、安全にご利用いただけるよう、ご使用前に必ずよく読み、正しい使用方法・使用上の注意事項をよくご理解ください。
※この説明書は、いつでも利用できるよう、大切に保管してください。

扉の開閉は、静かに行ってください。乱暴に扱うと扉が破損したり、脱落する恐れがあります。

ストーブ等の熱源を近付けたり、クーラーの風を直接当てたりしないでください。扉が反ったり、表面が歪む恐れがあります。

扉にもたれたりしないでください。
扉が破損したり、脱落する恐れがあります。

扉と扉の間の隙間が広くなるような加工は絶対にしないでください。広がると乳幼児が指を挟むおそれがあります。
又、扉と扉の間の隙間には手を入れないでください。指を挟むおそれがあります。

3 お手入れの方法

扉や枠の清掃は、乾拭きまたは中性洗剤を薄め、硬く絞って拭いてください。シンナーやベンジン等を使用すると、表面の艶が変わったり、変色する恐れがあります。

4 準備

●梱包を開けて部品を確認してください。

●扉は上吊り式です。まぐさは必ず強度のある梁から、吊束又は吊りボルトで補強してください。
梁が弱いと上枠が垂れ下がり、扉がスムーズに開閉できません。

●開口部の幅・高さの寸法を十分に確保してください。

	3尺間口以上	4.5尺間口以上
梁の断面寸法	105×105㎜以上	105×180㎜以上

●下枠・沓摺が必要な場合は現場手配ください。

●柱の垂直、床・まぐさの水平を、下げ振り・水準器でよく確認してください。垂直、水平がでていない場合、下記の原因となります。
図のようなことがあった場合、扉が閉まらないことがあります。

たおれ

たいこ

つづみ

傾き

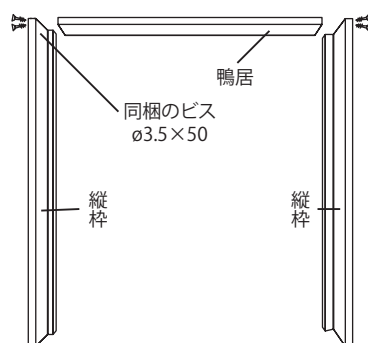
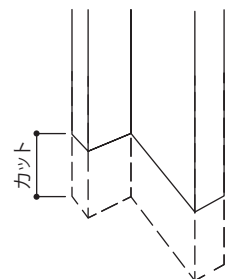
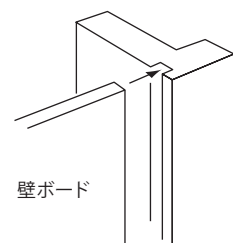
ねじれ

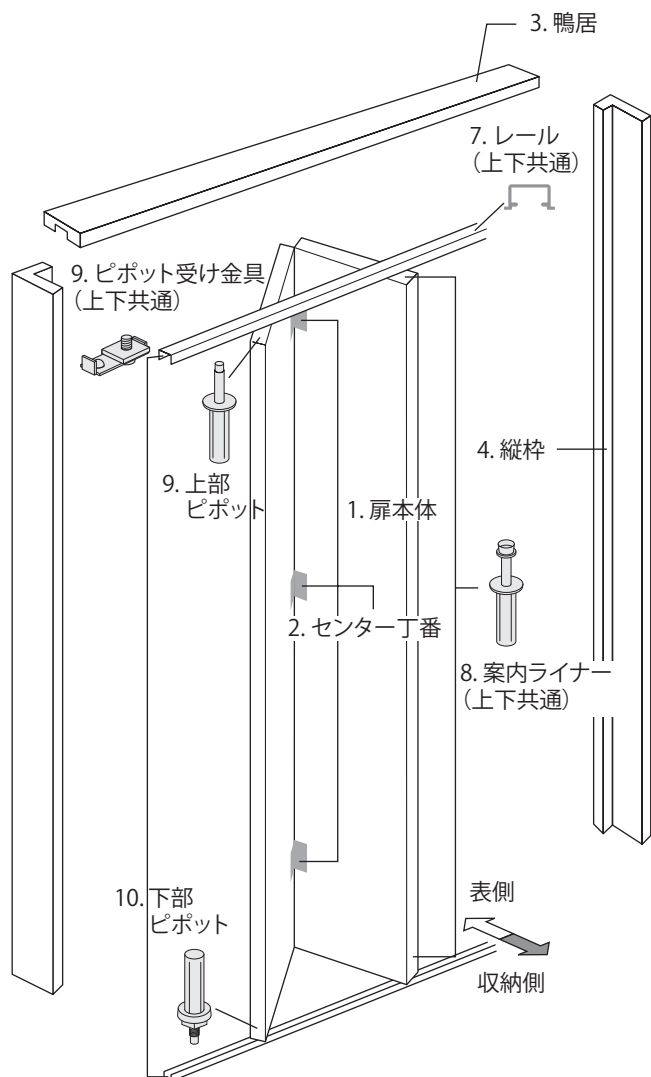
5 施工の前に

枠を床下に埋めこまない場合は枠下端をカットしてください。

枠を床下に埋めこむ場合は枠下端を床厚さに合わせてカットしてください。
詳細は寸法図を確認してください。

三方枠を組み立ててください。
※同梱のビスをご使用ください。

※縦枠、控壁と鴨居にズレがないことを確認してください。

固定枠・薄壁枠の場合は、必要に応じて枠の裏側に壁ボードの溝加工を行なってください。

6 全体図

《固定枠》

《扉》

<table>
<tr><th rowspan="2">番号</th><th rowspan="2">名称</th><th colspan="5">数量</th></tr>
<tr><th>W735</th><th>W1190</th><th>W1626</th><th>W2422</th><th>W3218</th></tr>
<tr><td>1</td><td>扉本体</td><td>2</td><td>4</td><td>4</td><td>6</td><td>8</td></tr>
<tr><td>2</td><td>センター丁番（扉に取付済）</td><td>3</td><td>6</td><td>6</td><td>9</td><td>12</td></tr>
</table>

《枠》

<table>
<tr><th rowspan="2">番号</th><th rowspan="2" colspan="2">名称</th><th colspan="5">扉固定タイプ</th></tr>
<tr><th>W735</th><th>W1190</th><th>W1626</th><th>W2422</th><th>W3218</th></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="2">鴨居</td><td colspan="5">1</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="2">縦枠</td><td colspan="5">2</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="2">枠組立てビス　ø3.5×50
（アトムスーパーハイロー）</td><td colspan="5">4</td></tr>
<tr><td rowspan="4">6</td><td colspan="2">施工用ビスセット</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td colspan="2">樹脂キャップ</td><td colspan="5">8</td></tr>
<tr><td rowspan="2">枠調整ビス</td><td>縦枠用
ø3.5×50</td><td colspan="5">8</td></tr>
<tr><td>鴨居用
ø5.2×55</td><td>3</td><td>5</td><td>6</td><td>9</td><td>12</td></tr>
<tr><td rowspan="3">7</td><td colspan="2">レール（上下共通）</td><td colspan="5">2</td></tr>
<tr><td colspan="2">上レール用
取付ビス　ø3.5×32</td><td>4</td><td>5</td><td>7</td><td>9</td><td>12</td></tr>
<tr><td colspan="2">下レール用
取付ビス　ø3.5×16</td><td>4</td><td>5</td><td>7</td><td>9</td><td>12</td></tr>
<tr><td>8</td><td colspan="2">案内ライナー
（戸先へ取付・上下共通）</td><td>2</td><td>4</td><td>4</td><td>6</td><td>8</td></tr>
<tr><td>9</td><td colspan="2">ピポット受け金具
（吊元へ取付・上下共通）</td><td>2</td><td>4</td><td>4</td><td>6</td><td>8</td></tr>
<tr><td>10</td><td colspan="2">上部ピポット（吊元側）</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr>
<tr><td>11</td><td colspan="2">下部ピポット（吊元側）</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr>
<tr><td>12</td><td colspan="2">ビス穴隠しシール</td><td colspan="5">2</td></tr>
</table>

《その他》

番号	名称	数量
13	テゴーロ（折れ戸）施工・取扱説明書　（本紙）	1

《現場手配》

番号	名称	数量
14	スパナ　※12㎜/10㎜のスパナが必要です。	1

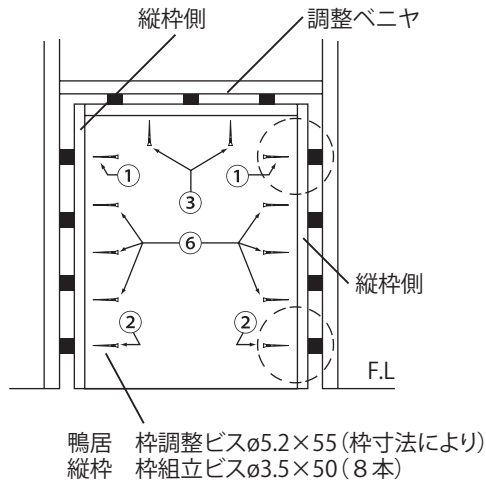
※必ずお施主様にお渡しください。

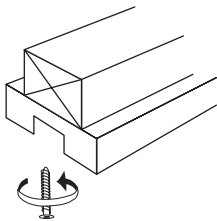
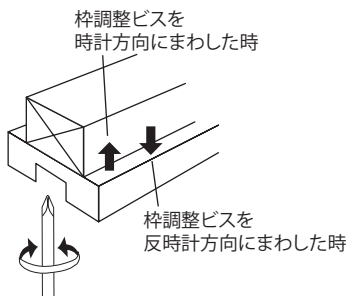
7 施工手順

《開口部への枠の取付》

①枠を開口部にはめこんで縦枠側の上部を枠取付ビス（ø3.5×50）で仮固定してください。

②下げ振りを使って垂直をだしてから、縦枠の下部を枠取付ビス（ø3.5×50）で仮固定してください。

③水準器で上枠の水平を見ながら鴨居を枠調整ビス（ø5.2×55）で仮固定してください。

④鴨居の上下調整は次の様に行ってください。

A. まず枠調整ビスで鴨居を固定します。

B. 枠調整ビスを回すことで、梁と鴨居の間の隙間を調整することが出来ます。

C. 鴨居と梁の隙間を調整したあと、隙間に木工ボンドを塗った調整ベニヤ（現場調達）を入れ、ビスで締め付けて下さい。

●枠調整ビスでの調整には必ず手動ドライバーをご使用ください。
電動ドライバーを使用すると、ビス頭がつぶれ調整ができなくなります。

⑤鴨居調整後、枠取付ビスの上下に木工ボンド（現場手配）を塗った調整ベニヤ（幅＝柱幅程度 × 高さ＝100㎜以上）を入れてください。

手順①②③④部分の調整ベニヤは左図のようにビスの上下に入れてください。

調整ベニヤを入れないと、枠がぐらつき、丁番が破損したり、壁と枠の間にスキマが発生する恐れがあります。

枠の水平・垂直を必ず確認してから取り付けてください。
扉が閉まらない原因となります。

鴨居は同梱の枠調整ビスでリード穴から固定してください。

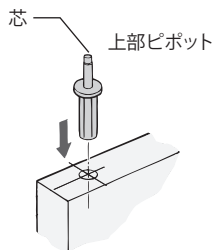
8 床の溝加工

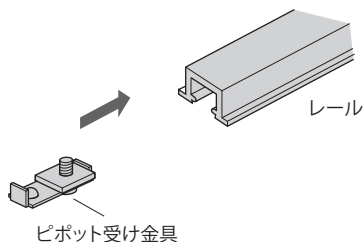
※堀込溝の位置は縦枠の仕上り寸法から追い出して加工位置を決定してください。

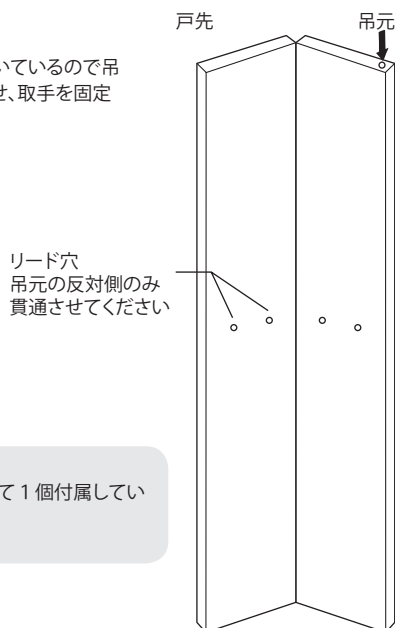
9 金具の取付

《戸に付ける金具の取付け》

①丁番を所定の位置に取り付けます。
②戸に加工した穴に、下部ピボット、上部ピボット、
　案内ランナーを挿入します。

ピボット挿入時に芯をハンマーなどで
たたかないでください。

《レールの取付け》

①上下のレールを取り付ける前に、ピボット受け金具をレール内に挿入しておきます。
②それからレールを取り付けてください。

《取手の取付け》

①扉の吊元を確認してください。。
②扉の裏側に取手のリード穴が開いているので吊
　元の反対側のリード穴を貫通させ、取手を固定
　してください。

取手は扉１枚に対して１個付属してい
ます。

10 戸の吊込み

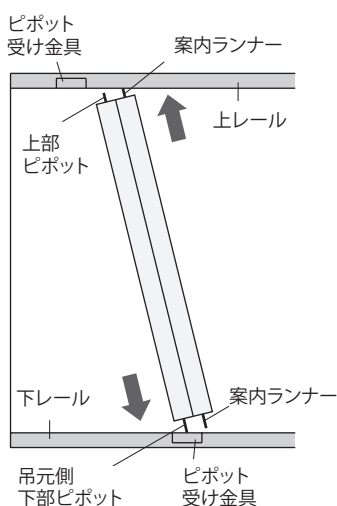
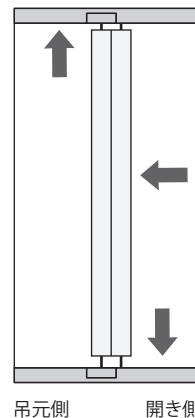
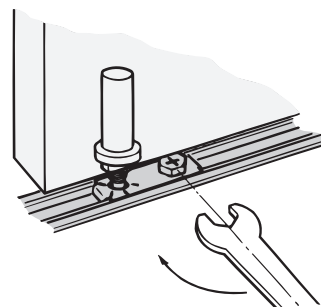
《戸の吊込み》

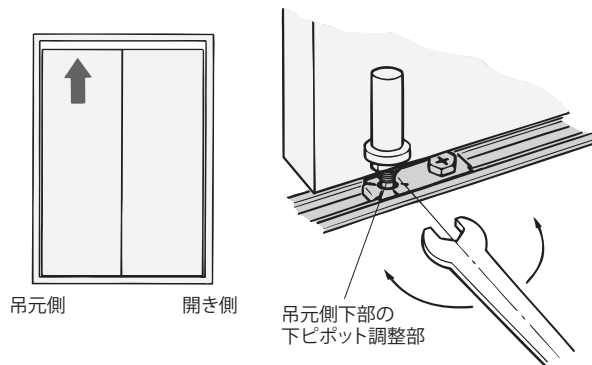
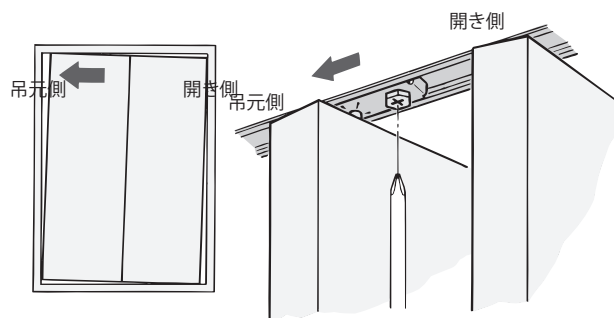
①ピボット受け金具はレールに固定しないでフリーの状態にして、図①のように、上
　下の位置をずらしておきます。
②戸を傾けて、下部ピボットを下のピボット受け金具に、次に上の案内ランナーを上
　レールに入れます。(図①)
③図②のように、戸を垂直に立てていきながら、上部ピボットを上のピボット受け金
　具に、下の案内ランナーを下レールに入れます。
④吊元位置を定位置まで移動させ、最後に上下のピボット受け金具をスパナでしっ
　かりと固定してください。(図③)

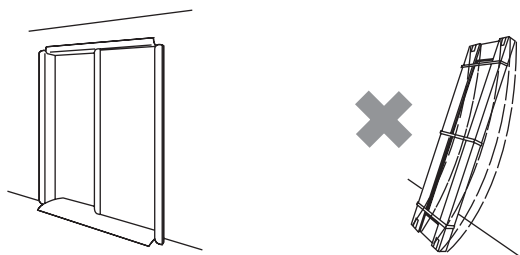
図①

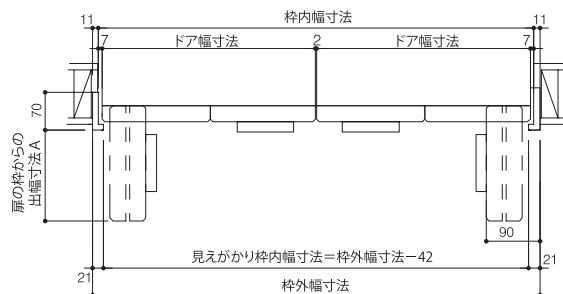
ピボット
受け金具
案内ランナー
上レール
上部
ピボット
下レール
案内ランナー
吊元側
下部ピボット
ピボット
受け金具

図②

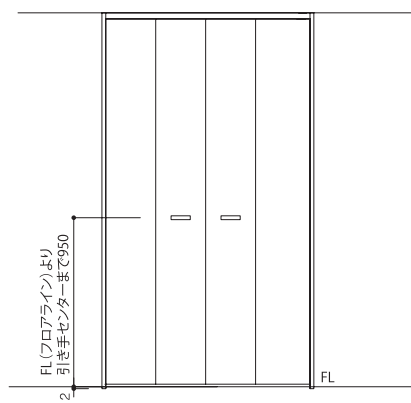
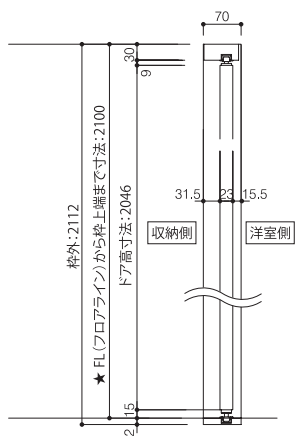
吊元側
開き側

図③

11 戸の位置調整

戸の位置が上がり過ぎたり、下がり過ぎたりしている場合
➡下部ピボットで、上下調整をしてください
①戸を閉めた状態のまま、下部ピボットの調整部をスパナで回していけば、戸が上下
　します。

戸が傾いていたり、左右どちらかに寄り過ぎている場合
➡ピボット受け金具で、左右調整をしてください。
①例えば戸が図のように傾いている場合は、上のピボット受け金具を吊元側に寄せ、
　下のピボット受け金具を開き側に寄せて調整します。

12 養生

工事が完成するまで扉・枠をダンボールなどで養生してください。その際、養生テープを枠・建具に直貼り使用すると、表面シートが剥がれる事がありますので、直接貼らないようにしてください。金具は布・ミラーマットなどで養生してください。

※扉は壁に立てかけて保管しないでください。反りの原因になります。
※扉は梱包ケースに再度入れ、平積み保管してください。

横断面図

	1枚	2枚		3枚	4枚
	W735	W1190	W1626	W2422	W3218
ド ア 幅 寸 法	699	576	794	794	794
枠 内 幅 寸 法	713	1168	1604	2400	3196
枠 外 幅 寸 法	735	1190	1626	2422	3218
見えがかり枠内幅寸法	693	1148	1584	2380	3176
扉の枠からの出寸法Ａ	290	229	338	338	338

13 クローゼットー折れ戸寸法図

正面図

縦断面図

14 木質材料の性質

《反りについて》

木材を原料とする木質材料（合板・MDF・パーティクルボードなど）を加工して作られた内装ドアは、大気中の水分を吸収・放出することにより伸縮する特性があります。この大気中の水分の吸収・放出は、内装ドア周辺の温度・湿度などの環境条件の変化に応じて発生するもので自然現象といえます。とくに内装ドアの室内面側と室外面側の環境条件が大きく異なる場合、「反り」という現象が発生することがあります。

《反りの発生を出来るだけ抑える方法》

ご使用の環境や設置場所によって、反りが発生する場合があります。反りの発生をできるかぎり抑える方法として、以下の事柄にご注意ください。

①エアコンや暖房器具等をご使用になる場合、ドアに直接熱風・熱気が当たらないようにしてください。

②冷暖房や除湿などにより、室内外の環境差を極端に大きくしないでください。

③ドアに直接日光が当たる場合、カーテンやすだれで日光を遮ってください。発生した反りは室内外の環境条件を近づける事によって、小さくなる事があります。

④発生した反りは、室内側と室外側の環境条件を近づける事（ドアを縦枠側へ締め切る）によって、小さくなる事があります。

15 アフターサービス

《保証について》

下記保証書をご提示ください。故障した場合記載内容により無料交換いたします。

保証書	
品名	デゴーロ
保証期間	対象：建具 期間：お買上げ日から1年
お買上げ日	年　月　日
お客様	お名前 ご住所 電　話　（　　　）
工事店	店　名 電　話　（　　　）
	当社製品はお買上げ日から1年間無料交換いたします。 保証は日本国内において有効です。 **保証期間中でも以下の場合は有料交換となります。** ●取扱説明書および注意ラベルによらずご使用になり、故障及び損傷した場合。 ●建物の設計・施工に起因する場合。 ●取付、設置時の不注意または過失による故障及び損傷。 ●引渡し後の設置場所の移動、落下などによる故障や損傷。 ●不当な修理や改造による故障及び損傷。 ●火災、天災、地変、その他の不可効力による故障や損傷。 ●建築躯体の強度不足、歪み、劣化、その他本体製品以外の不具合による故障や損傷。 （ご連絡先）　株式会社サンワカンパニー TEL：0120-468-838　FAX：0120-382-096

※お客様でご記入をお願いしたします。
（サービスを依頼される際にお役に立ちます）

●●● sanwacompany

株式会社サンワカンパニー / **SANWA COMPANY LTD.**

● **HEAD OFFICE**	541-0041	大阪市中央区北浜2-1-7	TEL 06-6229-1024	FAX 06-6229-1082
● **TOKYO**	107-0062	東京都港区南青山4-18-16-B1	TEL 03-5775-4763	FAX 03-5775-4764
● **OSAKA**	541-0042	大阪市中央区今橋2-3-21-3F	TEL 06-6229-1034	FAX 06-6229-1310
● **NAGOYA**	461-0004	名古屋市東区葵1-13-8-1F	TEL 052-935-2217	FAX 052-935-2218